

Introducing YAZ BAND

YAZ BAND は、ニューヨーク・ブルックリン在住の、YAZ こと高木靖之をリーダーとする、サクソ、キーボード、ベース、ドラムの 4 名編成のバンドである。2002 年に結成されて以来、ミュージック・アンダー・ニューヨーク (MUNY) の正式メンバーとしてニューヨークの地下鉄構内で定期的に演奏するほか、ニューヨークおよびその近郊で活動をしている。

サクソの YAZ のエモーショナルなフレーズとダイナミックなパフォーマンス、そして、メシオ・パーカーやハーレム・ゴスペル・クワイヤなどで演奏していた経験豊富なリズムセクション、ストリートで彼らが演奏をはじめると、みるみる人垣ができてゆく。

2003 年 6 月には自主制作 CD「YAZ」を発表、2003 年と 2004 年には「Under New York in Seoul」のイベントで韓国ツアーに行き、好評を博す。

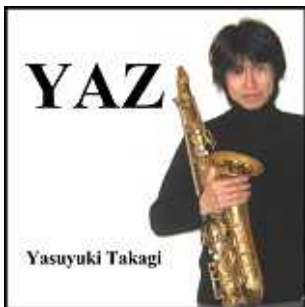
2005 年 2 月に 2 枚目の CD「You Can't Say It In Public」が完成して以来、従来の地下鉄やクラブでの演奏のほかに、ニューヨークの FM ラジオ番組やケーブルテレビへの出演、日本のラジオ局でのオンエア、日本のジャズ雑誌「スイングジャーナル」に紹介の記事が掲載され、日本のテレビ局のニュース番組でも取り上げられるなど、日米のメディアに頻繁に取り上げられた。リンカーンセンターの屋外コンサートやハーレムの「ミントンズ・プレイハウス」にも出演し、現在はハーレムの「Mo Bay」「Baton Rouge」「River Room」やブルックリンの「Fireplace」などでも定期的に演奏している。

2007 年 12 月には 3 枚目の CD「Rush Hour」が完成した。

*これらの CD は YAZ BAND のホームページ www.yazband.com で購入できます



3rd CD
" RUSH HOUR "
2007 年 12 月



1st CD
" YAZ "
2003 年 6 月



2nd CD
"You Can't Say It
In Public"
2005 年 2 月

連絡先 : Yasuyuki Takagi
住所 : 56 Norman Ave. #2, Brooklyn, NY 11222
電話 : (917) 346-8875
E-mail : yaz@yazband.com
ホームページ : www.yazband.com

Yasuyuki “Yaz” Takagi Tenor Saxophone



YAZ こと高木靖之は、幼いころから日本の童謡と同じように、父親のジャズレコードコレクションを耳にしながら、大阪で育った。振り返ってみても、本人には全くその記憶はないものの、この事は彼の将来に充分影響を与えた。しかしながら、彼は音楽の専門的な教育は全く受けることはなかった。10代になると、彼は、ボブ・ジェームス、デイブ・グルーシン、クルセイダーズ、アースウィンドアンドファイアー、グローバー・ワシントン Jr.などのアメリカのジャズ・フュージョン、R&B に夢中になっていた。特に、デイビッド・サンボーンのアльバムを聴いたときに、彼自身サックスを演奏したいという欲求が芽生えたのである。

高知大学教育学部に入学後、彼は、ブラスバンド部に入部して初めてサックスを手にする。その後、軽音楽部に入部、ジャズバンドで先輩から手ほどきを受ける。この頃から彼は、幼い頃聴いていたであろうジャズレコードを聴きあさるようになる。もちろん、将来ニューヨークへ行ってプロミュージシャンを目指すことになるうとは夢にも思わなかった。

大学卒業後、彼は大阪に帰り社会福祉施設に勤務する。そのかたわら、京都の藤ジャズスクールにて宮哲之氏に師事しジャズサックスを、また藤井貞泰氏に師事しジャズ理論を学ぶ。こうして、彼の音楽への情熱は日増しに高まり、アマチュアのジャズグループで演奏したり、宮氏や藤井氏のギグに飛び入りすることもあった。

1992年4月、「ニューヨークに來れば何か得られるのではないか」との漠然とした思いを持って、ついにニューヨークにやってきた。しかしながら、ニューヨークのミュージシャンの高い技術レベルをまのあたりにして、彼はすっかり自信を無くしてしまった。著名な音楽学校で専門教育を受けた者でさえNYで認められるのは大変難しいといわれるのに、日本でアマチュアミュージシャンをしていた程度の実力ではNYでは見向きもされないであろう。彼は、音楽をやめてしまうことさえ考えた。

ビザによる滞在許可日数が残り少なくなった時、彼は、セントラル・パークで **Rob Scheps** というサクソプレーヤーと出会う。(Rob Scheps は 1990 年頃、日野皓正のグループで演奏していた。アルバム「BLUESTRUCK」) Rob に励まされた彼は、不法滞在を覚悟して Rob からレッスンを受け始める。週1回のレッスンを受けながら夜中までソーホーの日本食レストランで皿洗いをし、帰宅後アパートの地下室で朝まで練習する日々が続いた。その後、永住権を取得し、夜に音楽活動ができるよう、日系の旅行会社で働き始める。ジャムセッションやストリートで演奏を重ねるうち、彼は、ニューヨークエリアで活動する **Joy Ryder & New York Rhythm Allstars**, **Sly Gerald's Band**, **Since When?** などのバンドに誘われ、レギュラーメンバーとして演奏するようになった。

2001年9月11日の出来事は、彼にとって大きな転機をもたらした。直接の被害は受けなかったものの、旅行会社の職を失った彼は、当時、ニューヨークにいた人々と同様、大きなショックを受けた。しかし、彼は、これを機にフルタイムミュージシャンになる事を決意、ストリートの演奏を続けた。

2002年、メトロポリタン交通局主催のミュージック・アンダー・ニューヨークのオーディションにパスし、ニューヨーク市内の地下鉄駅構内で演奏する許可を取得。その際に結成した自分のバンド Yasuyuki Takagi Group (現在は YAZ BAND と改称) で地下鉄構内で定期的に演奏活動をはじめた。その活動が評価され、2005年には日本人としてはじめてミュージック・アンダー・ニューヨークのオーディションに審査員として参加、その後も2007年、2008年にも審査員を務めた。数々のイベントやクラブなどでの演奏や、自主制作CDの録音など、現在も YAZ BAND を中心に精力的に演奏活動を行っている。



Eric Smith : Keyboards

キーボード奏者であり、作曲・編曲もこなすエリック・スミスは、ジャズの影響を受けつつも、「モータウン・サウンド」や「フリー・サウンド」を深いルーツとしている。彼は1980年代初めから様々な音楽プロジェクトに関わり、「SWEET WATERS」「COTTON CLUB」などのクラブや、伝統ある「APOLLO THEATRE」などをはじめ、NY市内及びその近郊のクラブで演奏をしていた。

ME AND MY FRIENDS というグループのメンバーとして演奏活動をする一方、T WEST、TRACY B、JOHN LEWIS のミュージックディレクターも努めた。

また、サリ・オグリが司会をした日本のテレビ番組「NEW YORKER'S」のテーマ音楽も手がけた。近年では、スムーズジャズグループ Since When? のデビューCDのプロデュースを手がけている。

2001年の初夏に、地下鉄で一人で演奏をしている YAZ を、偶然エリックが見かけて声をかけたのが YAZ とエリックの出会いである。それ以来二人は、スムーズジャズグループ Since When?、YAZ BAND そして時にはデュオで、共演を続けている。



Sly Gerald : Bass

スライ・ジェラルズはボーカルもこなすベーシストである。スタンリークラークにベースを学び、ジュリアード音楽院でクラシック音楽を学んだ。サイドマンとしてボブ・ディラン、アル・グリーン、メイシオ・パーカーら有名ミュージシャンと共演するほか、自らのバンドでもNY市内及びその近郊のクラブで演奏活動を続けている。

近年はハーレム・ゴスペル・クワイアーのベーシスト、コーラス兼ミュージカルディレクターとして、南米・ヨーロッパ・オーストラリア・日本へのツアーに参加した。

スライが、NYの女性シンガー Joy Ryder のバンドで演奏しているときに YAZ が飛び入りで演奏したのがスライと YAZ との出会いである。それ以来スライは自らのバンドのサクソ奏者として YAZ を採用、また YAZ BAND においては結成以来のメンバーとして強い信頼関係で活動を共にしている。



Tomoaki Kanno : Drums

菅野知明はジャズからヒップホップまで、幅広い音楽性を持ったドラマーである。5才でピアノを学び始め、のちに様々な楽器を演奏したが、17才でドラムの面白さに目覚め、「東京コミュニケーションアート」でドラムを学ぶ。在学中から、シングライク・キングのベーシストだった佐久間あきひろのバンド「WILL」に参加し、日本各地で演奏活動を行い、また卒業後は和田雄二郎のグループで演奏、多くのことを学んだ。その後、ニューヨークのニュースクール・ジャズ科に卒業、現在はニューヨークで最も忙しいドラマーの一人である。また、自己のバンド「CHICKEN GRAVY」では2枚のCDを発表、日本ツアーも成功した。

YAZ は友人を介してトモと知り合った。2003年の夏に YAZ BAND が韓国にツアーに行くことになった際、他のドラマーの都合がつかず、YAZ はトモに参加を頼んだ。韓国では、トモは素晴らしい演奏をし、それ以来、トモは YAZ BAND にとって重要なメンバーになった。

MUSIC UNDER NEW YORK とは？

ニューヨーク市内のバスや地下鉄、及び近郊の鉄道などの、公共の交通機関を管理・運営するメトロポリタン交通局(MTA)に、ART FOR TRANSIT (AFT)という組織がある。AFTは公共交通機関の利用者のために設備・環境の快適さを高める目的で、多くのビジュアルアートやパフォーマンスのプログラムを運営している。そのひとつである ミュージック・アンダー・ニューヨーク(MUNY)は、地下鉄駅構内などで活動するミュージシャンやパフォーマーを厳選し、許可を与えることによって、公共交通機関の環境をより魅力的にするとともに、公共の安全性を高めることもねらいとしている。

MUNYは1985年に試行され、1987年1月から正式に活動をはじめた。現在100以上のパフォーマー及びグループが約25ヶ所において、週150回以上のパフォーマンスを行っており、その内容は、クラシックから、ケイジャン(ニューオリンズの音楽スタイル)、ブルーグラス、アフリカン、南米音楽、ジャズまで、多岐にわたっている。

MUNYは市内全域においてあらゆるタイプのミュージシャンやパフォーマーを取り仕切っている。毎年、5月にオーディションが行われ、プロの音楽関係者が、そのパフォーマンスのクオリティ、多様性、そして、公共の場に適しているかどうかということを基準として審査を行っている。

オーディションに合格したものは、このプログラムの説明をうけ、特に公共交通機関利用者の安全と快適に関して理解を求められる。パフォーマーは、MUNYの横断幕を与えられ、各駅長・警察の代表・ニューヨーク交通局の安全管理課が定めた場所でのみ演奏する事ができ、そのスケジュールは、MUNYによって管理されている。

YAZが2002年に自己のグループで合格した際には、約300組の応募があり、合格は24組であった。YAZは、2005年には日本人としてはじめてミュージック・アンダー・ニューヨークのオーディションに審査員として参加、その後も2007年、2008年にも審査員を務めた。